

第2部 随筆(作文) テーマ「ごはんのにおい」

小中学生の部

タツノコ賞

愛情つまったごはんのにおい

長野県山ノ内中学校三年

須野原きさら

ごはんのにおいは最高だ。私は運動部に所属している。私が入っている部活は全身を鍛えるスポーツだから、部活が終わると、死んだように動けなくなる。最後の力をふりしぼり家に帰るとごはんのにおいにする。

このにおいからはお母さん、おばあちゃんの愛情がたくさんつまったにおいにする。

いつもごはんはお母さんとおばあちゃんが作ってくれる。とても美味しいごはんだ。美味しいだけじゃない。見た目もとてもきれいですぐにでも食べたくなるようなごはんだ。それに、運動部に入っている私をとっても考えて作ってくれているご

はんで、栄養がちゃんととれる。私はこのごはんのにおいも、ごはんも大好きで、ごはんを食べている時、すごく幸せを感じる。今あるこの幸せは、四年後、もしかすると一年後になくなってしまふ。この幸せはあたりまえではないと、家を出ると年に近づくにつれて強く思うようになってきた。これからは自分で作っていかないといけない。だから私はたまに夜ごはんを作っている。栄養、味、見た目、全てをかねそろえたごはんを作るのはとても大変で時間がかかる。一日でも大変なことを、毎日やっている母と祖母はすごい。自分でやってみて、ますますこの幸せはあたり前ではないと身にしみる。

愛情がたくさんつまったごはんのにおいとはこのことだ。私はこのごはんのにおい、幸せをとっても大切にしたいと思っている。そのために毎日、母と祖母には「美味しかったよ」「ありがとう」を伝えるようにしている。それはこれからも続けていきたい。